

## 二つの日本遺産と旧遠藤家住宅

旧遠藤家住宅は、  
日本遺産「出羽三山」と「サムライゆかりのシルク」の  
構成文化財に指定されております。

### 出羽三山

～自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」～

山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では、羽黒山は現世利益を叶える現在の山、月山は祖霊が鎮まる過去の山、湯殿山は新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。

三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で「生まれかわりの旅」として広がり、地域の人々に支えられながら、日本古来の山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。

田麦俣集落は庄内と内陸を結ぶ六十里越街道の要所であり出羽三山への参拝者を迎えた宿場がありました。旧遠藤家住宅は、雪深いこの地域の生活を今に伝える建物です。

### サムライゆかりのシルク

～日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ～

鶴岡市を中心とする庄内地域は明治維新以降、旧庄内藩のサムライたちが刀を鋏に替えて松ヶ岡（鶴岡市羽黒町）を開墾し日本最大の蚕室群の建設を経て国内最北限の絹産地として発達し、今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地です。

絹産業が発展し家庭でも養蚕が盛んになると、田麦俣でも山仕事をする傍ら養蚕をするようになりました。山間部の傾斜地に位置し住宅に適した土地が狭い田麦俣は豪雪地帯で、建物の新築や増築が困難であったため、毎日の暮らしと作業・養蚕のための部屋を一つの建物の中にまとめ四層構造の多層民家の里とし松ヶ岡の開墾により大きな影響を受けたとされます。

### 観覧料

区分	料金	金 (円)	
個人	小学生・中学生	200	
	高校生以上	300	
団体	小学生・中学生	100	20名以上を 団体とする
	高校生以上	250	

**開館時間** 午前9時から午後5時まで

**休館日** 毎週月曜日・年末年始(12月29日から1月3日)  
※月曜日が祝日の場合は火曜日が休館日となります。



県指定有形文化財

旧遠藤家住宅

T997-0532

鶴岡市田麦俣字七ツ滝139

鶴岡市教育委員会

TEL.0235-57-4868

朝日庁舎総務企画課

TEL.0235-53-2113

山形県指定有形文化財

# 旧遠藤家住宅

[多層民家]



JAPAN HERITAGE

◆出羽三山  
◆サムライゆかりのシルク

# 旧遠藤家住宅

庄内と内陸を結ぶ  
六十里越街道の要、田麦俣に残る「多層民家」

この建物は鶴岡市田麦俣に見られる兜造り多層民家の代表的なもので、昭和49年4月山形県有形文化財の指定を受けた市有建造物である。

昭和52年8月から同53年10月まで、山形県教育委員会の指導監督のもとに半解体復元工事を行い、兜造りに改築され明治10年代の姿に復元したものである。

田麦俣集落は、庄内と内陸を結ぶ六十里越街道の要所であり、湯殿山信仰が盛んになるにつれて、宿場の性格を帯びてきたのである。

このような環境の中に、この地方独特の建築様式を誇るかやぶきの民家がたくさん建てられるようになった。「旧遠藤家」もその中の一つとして、江戸時代後期の文化文政年間に建てられたものと推定される。

当初は寄せ棟造りであったが、明治に入って養蚕が盛んになると、屋根の改造が行われ、妻側は「高はっぼう」という輪郭と反りが美しい「兜造り」に改造され、平側にも採光と煙出しの窓が造られて、風格のある建物に変わっていった。

内部は、一階が主に家族の居住用として使われ、二階は下男たちの居住用と作業場・物置であり、その上に養蚕と作業のための三階「チシ(ツシ)」があり、さらにその上に物置用の「天井チシ(ツシ)」がある。

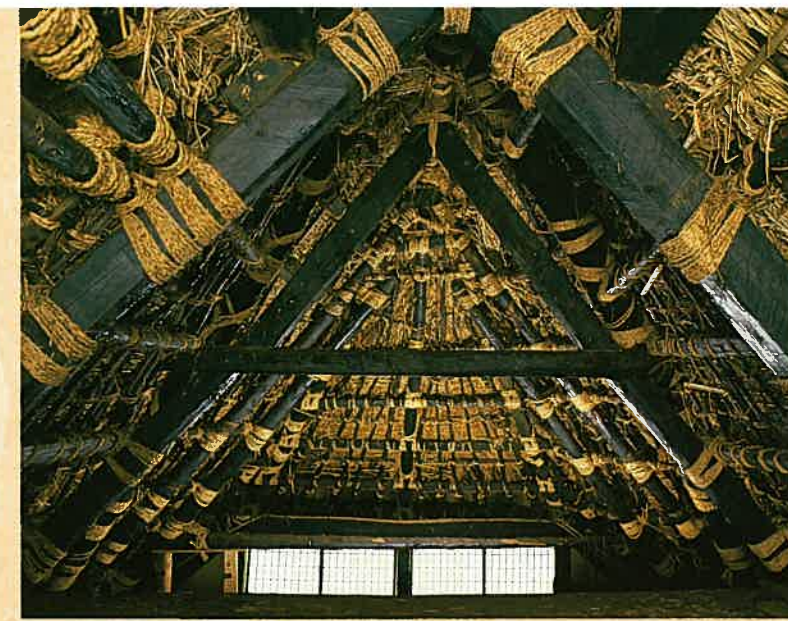
この地方は、土地が狭いうえに積雪が多く、建物の増築が困難であったため、毎日のくらしと作業・養蚕のための部屋が一つの建物の中にまとめられて、多層の形になったものと推定される。



❖作業場



❖ソリ



❖屋根



❖家族団らんの場「おめえ」



❖でどご



## 兜造り

屋根の妻側から見た姿が、武者のかぶった、兜の姿に似ているところから、兜造りとよぶようになった。

## 旧遠藤家平面図

